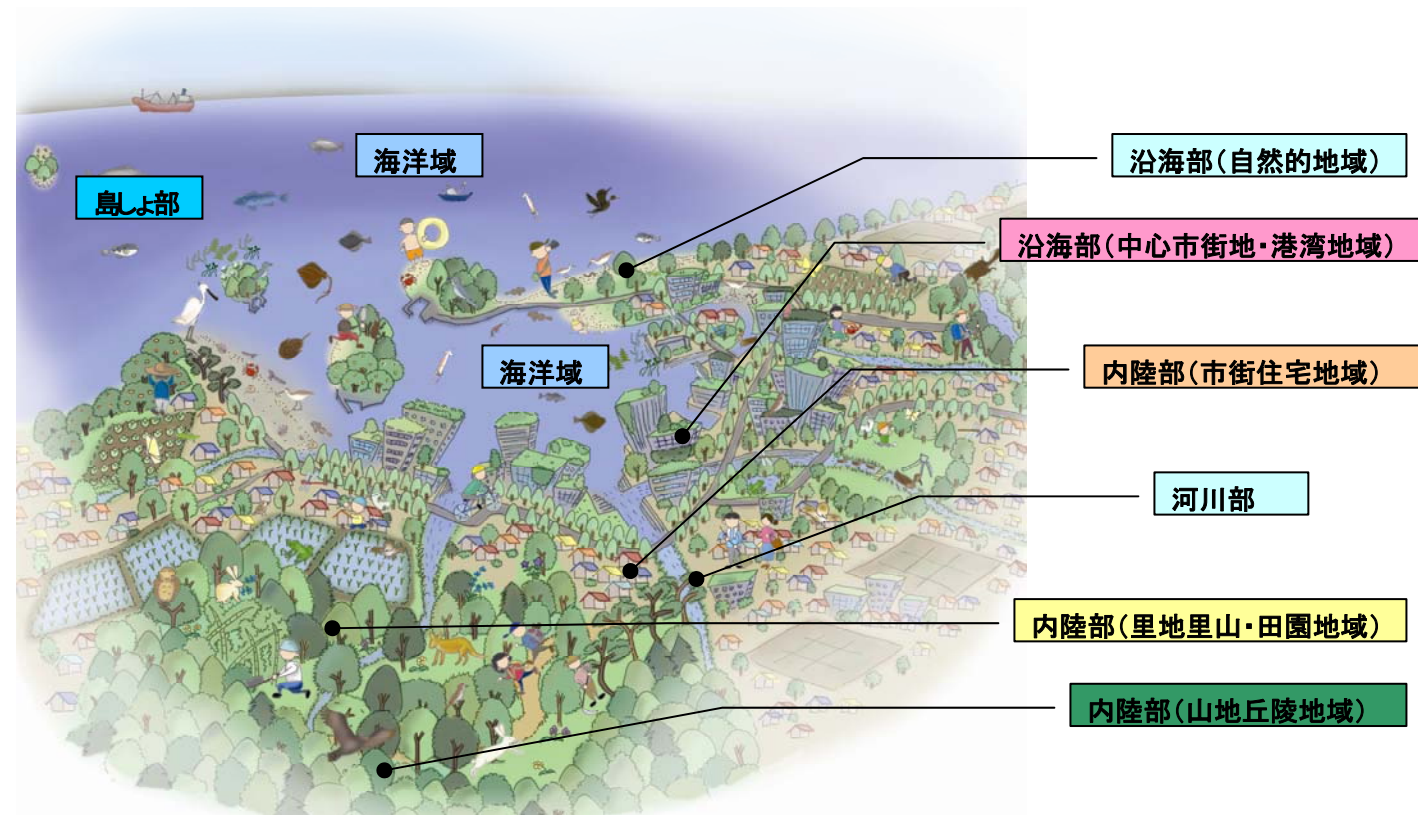
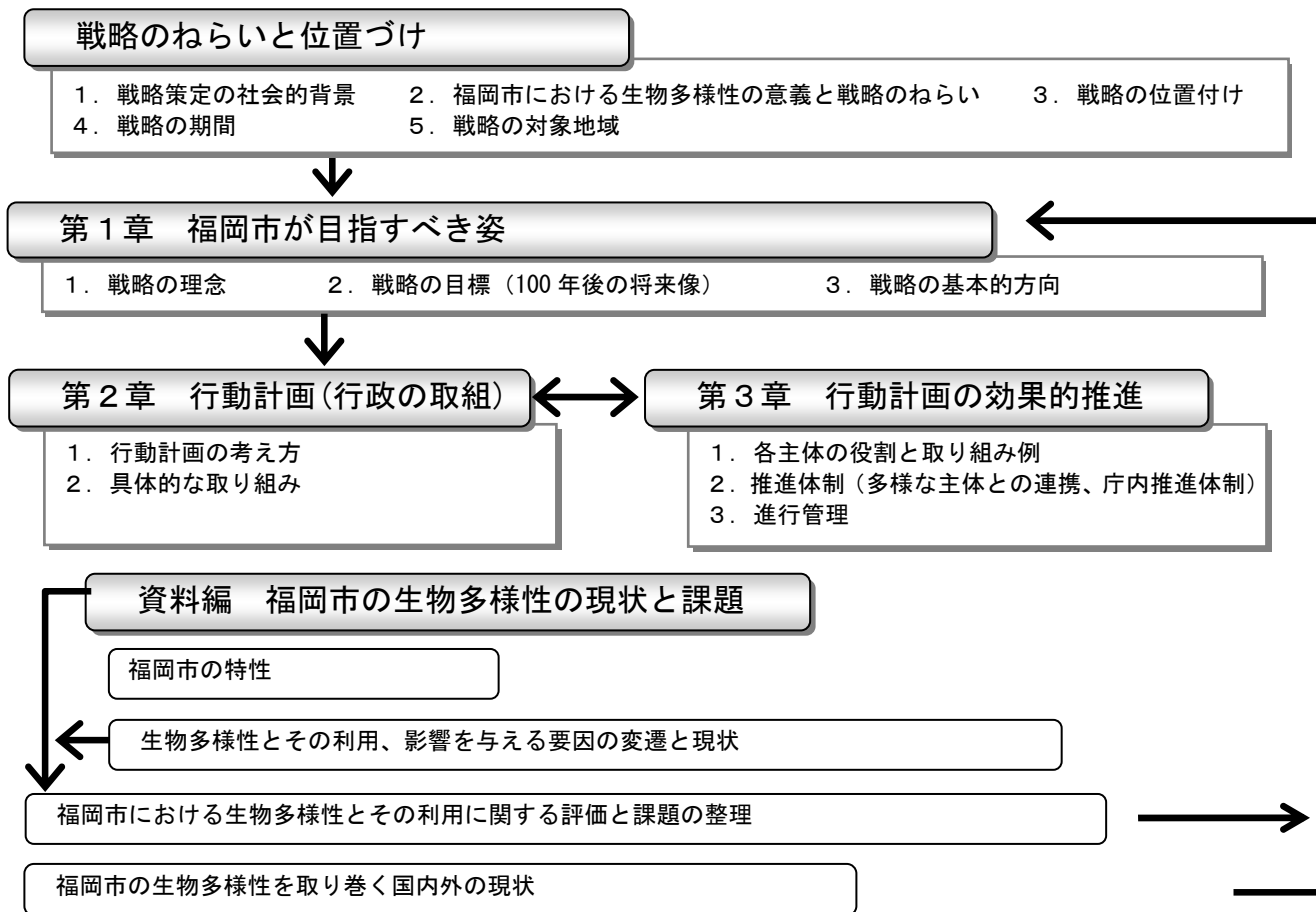


全体構成



本戦略の特徴



福岡市の自然的特徴である油山・背振山などの山々から、福岡平野を貫き、博多湾へと流れる多々良川・那珂川・室見川などの河川、この福岡の自然環境のつながりを意識し、生物多様性の『保全』及び『持続可能な利用』を基本的方向の柱として、身近な自然や博多の食文化など福岡市の個性・魅力が生物多様性に支えられていることの認識を促し、生物多様性の重要性を広く福岡でも『社会に浸透』させる。
 また、生物多様性に支えられた特徴的な『文化』に更なる磨きをかけ、生物多様性における弱みを多様な主体や地域との『連携』によって補っていく。

第1章 福岡市が目指すべき姿

戦略の理念 ~「生物多様性の保全と持続可能な利用」の重要性を示す理念~
 ①すべての生命が存立する基盤を整える ②人間にとって有用な価値を持つ
 ③豊かな文化の根源となる ④将来にわたる暮らしの安全性を保証する

戦略の目標(100年後の将来像)

全体	『市民が多様な生き物とその生息地である自然環境の保全・再生・育成に取り組み、百年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市「ふくおか」』
地域別目標	<p>《代表的な目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋域: 海洋汚染や温暖化が最小に抑えられ、豊かな水産資源の恩恵で食文化が継承される 2. 島しょ部: 岩礁や砂浜が残り、貴重な生きものや固有の文化が保全される 3. 沿海部(自然的地域): 干潟や藻場などの沿岸生態系が保全され、多様な海洋生物が生息する 4. 沿海部(中心市街地・港湾地域): 市街地や港湾地域の低未利用地に緑地が造成される 5. 内陸部(市街住宅地域): 丘陵、崖線、河川沿いに带状に緑地が連なり風の通り道 6. 内陸部(里地里山・田園地域): 多くの二次林が自然遷移に委ねられ、里地里山の重要性を理解し保全 7. 内陸部(山地・丘陵地域): 近郊の森林は、市民が気軽に楽しみ、生物多様性を学ぶ場となる 8. 河川部: 多自然型川づくり等で、陸域から水域で生物の生息環境が変化するエコトーン(移行帯)が再生されている

基本的方向及び施策の方向性

- 1 生物多様性やその恵みに関する認識の「社会への浸透」
 - ①生物多様性を理解し、その保全の重要性を認識し、行動できるよう生物多様性を広く社会に浸透させます。
 - ②ふくおかの魅力が生物多様性の恵みに支えられていることを理解し、重要性を認識できる人や組織の形成を支援します。
- 2 人と自然の環境を改めて考えながら生物多様性の「保全」
 - ③海洋、島しょ、干潟、平野、丘陵、山地、河川などふくおかの多様な生物の生息環境を守るとともに、山、川、平野、海のつながりを確保します。
 - ④動物、水生生物、植物などふくおかの貴重な生き物を守ります。

生物多様性ふくおか戦略（仮称）中間取りまとめ【概要】

3 生物多様性から享受される恵みの「持続可能な利用」

- ⑤ふくおかの都市構造を活かして生物多様性に配慮したまちづくりを推進します。
- ⑥安心して暮らせるふくおかの都市基盤をつくります。
- ⑦生物多様性の恵みを活かしてふくおかの魅力を増進します。

4 生物多様性に支えられる「文化」の継承と創造

- ⑧生物多様性に育まれてきたふくおか固有の文化を継承します。
- ⑨生物多様性の恵みを活かして新たなふくおかの文化を創造します。

5 より広域な視野をもちながら地域の生物多様性を支える多様な主体や地域との「連携」

- ⑩ふくおかの生物多様性を支える多様な主体、多様な地域との協力関係を構築し、連携した取組を推進します。
- ⑪ふくおかの生物多様性を支える多様な主体、多様な地域と連携していくための仕組みやルールを構築します。

事業者（協同組合や公益団体含む）の役割

- ①事業活動と生物多様性との関わりを把握するよう努めること
- ②生物多様性に配慮した事業活動を行うことなどにより、生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、持続可能な利用に努めること
- ③取組の推進体制等を整備するよう努めること

NPO等活動団体の役割

- ①地域の生物多様性の保全のための活動のけん引役となること
- ②市民の生物多様性への理解を広め裾野を広げる役割
- ③多様な主体による生物多様性の保全のための活動と連携しそれを支える役割

大学・動植物園等研究機関の役割

- ①国内外のネットワークを活用した連携の促進や情報の蓄積・提供の機能
- ②地域の多様な活動の支援や学校教育の現場と連携して学習支援の役割
- ③生物多様性に関する大学カリキュラムの導入を通じた若者の育成や地域活動・地域産業などとのつながりの強化

第2章 行動計画（行政の取組）

行動計画の考え方

- ・環境基本計画、緑の基本計画、博多湾環境保全計画などにもとづく環境施策だけに留まらず、教育や福祉など幅広い分野の取り組みが生物多様性に関係している。
- ・本行動計画は、新たな施策を次々に展開するというものではなく、各分野が縦割りで進めてきた環境行政を、**生物多様性の視点で横串を刺し、一体的な取り組みとしていく**ことをねらいとする。

具体的取り組み

- ・本市の生物多様性に関わるさまざまな取り組みを体系的に示す意味から、前項で示した「基本的方向」の枠組みに沿って、本市における生物多様性に関わる具体的取り組みを整理し、関係各局で取り組む。また、併せて地域特性区分（地域別）との対応も整理する。
- ・大学教育における環境教育プログラムの導入・充実など、本戦略の実現に向けて、新たに取り組む必要があると考えられる施策について追加する。

第3章 行動計画の効果的推進

各主体の役割

行政の役割

- ①さまざまな取り組みを生物多様性の視点で体系化し提示する役割
- ②施策、事業に生物多様性の視点と具体的対応策の導入を促進し、取り組みの先導役を担う。
- ③市民、事業者、NPOなどの各主体の取り組みを支援するとともに、各主体間の橋渡し役を担う
- ④各種情報の収集（モニタリング等含む）と、市民、事業者、NPOなどへ情報発信の拠点

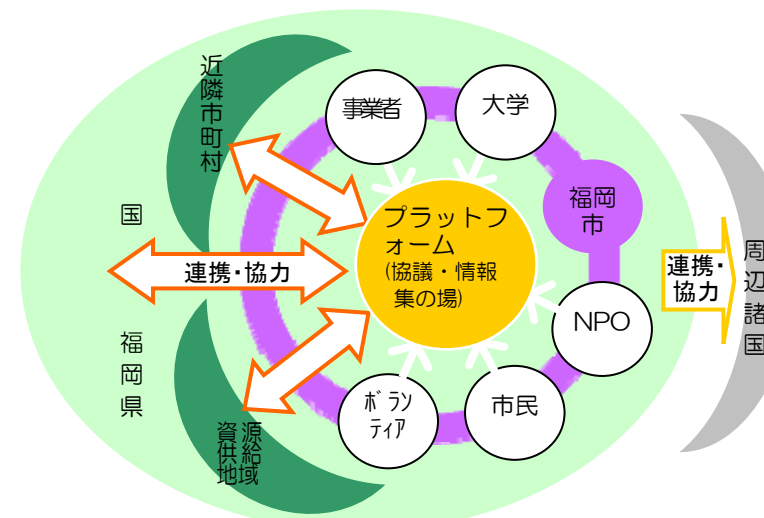
市民の役割

- ①生物多様性について知り・考えること
- ②生物多様性を保全するために一人ひとりが取り組むこと
- ③生物多様性を保全するために地域の取り組みに参加すること

進行管理

- 進行管理の考え方
「基本的方向」ごとの取組状況を評価し、方向別の遅れや新たに必要となる方向などを検討する。
- 評価指標の作成(Fukuoka Biodiversity Outlook : FBO(仮称))
「基本的方向」ごとの取組状況を評価する指標群を作成
- 評価の実施
評価指標に基づき、10年ごとに「基本方向」単位で取り組み状況を評価する
評価結果は、庁内会議等で報告するとともに、市HP等で公表する

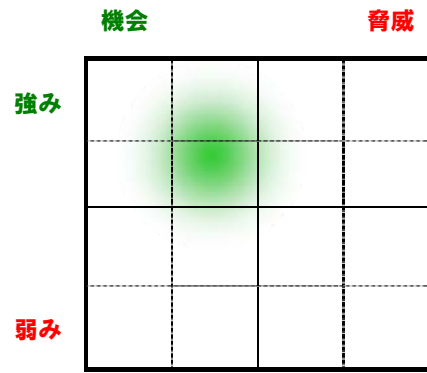
推進体制



- ①多様な主体との連携
・市民、NPO、事業者、大学・動植物園等研究機関など多様な主体との連携
・多様な主体との連携に必要な情報共有を行うためのプラットフォーム（協議、情報集約・発信の場）等の拠点の整備
・国、近隣市町村との連携体制
- ②庁内推進体制
・戦略の推進や目標達成に係る各種事項の協議を行う会議の設置
・近隣市町村、市民、NPO、事業者、大学等研究機関など多様な主体の参加を得る

生物多様性ふくおか戦略（仮称）中間取りまとめ【概要】

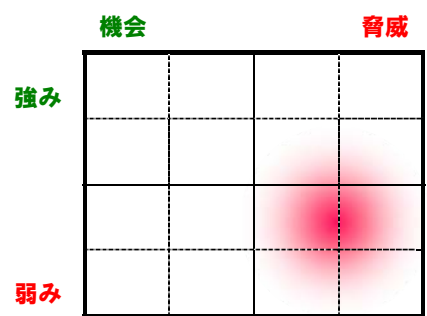
生物多様性の保全



SWOT分析※の手法を使って分析を行い、福岡市の生物多様性の「強み・弱み」、「機会・脅威」のバランスを確認

- 「強み」多様な生態系、支える人的資源にも恵まれる
- 「機会」連携・協力できる事業者、NPO、大学など多い
- 「弱み」農林業の衰退などによる農地の減少
人工林の管理不足による生物の生息環境の悪化
- 「脅威」国境を越えた環境汚染や外来種の侵入

生態系サービス



「供給サービス」

穀物、農産物（穀物以外）、漁獲、木材、バイオマス燃料、淡水など

- 「強み」消費地に隣接する農地や臨海都市
- 「弱み」都市化による森林、農地生態系の減少
人工被覆面の増加による水源かん養機能の低下
自然浄化能力の低下など
- 「脅威」森林、農地生態系の保全を担う一次産業の衰退

「調整サービス」

気候の調整、水の調整・土壌浸食の調整、水の浄化など

- 「弱み」農業の衰退による農産物の供給力低下
水資源の他地域への依存など
- 「脅威」海外の水産物需要の増大による資源量の減少
安価な輸入品への依存傾向など

「文化的サービス」

レクリエーション・ツーリズムへの利用など

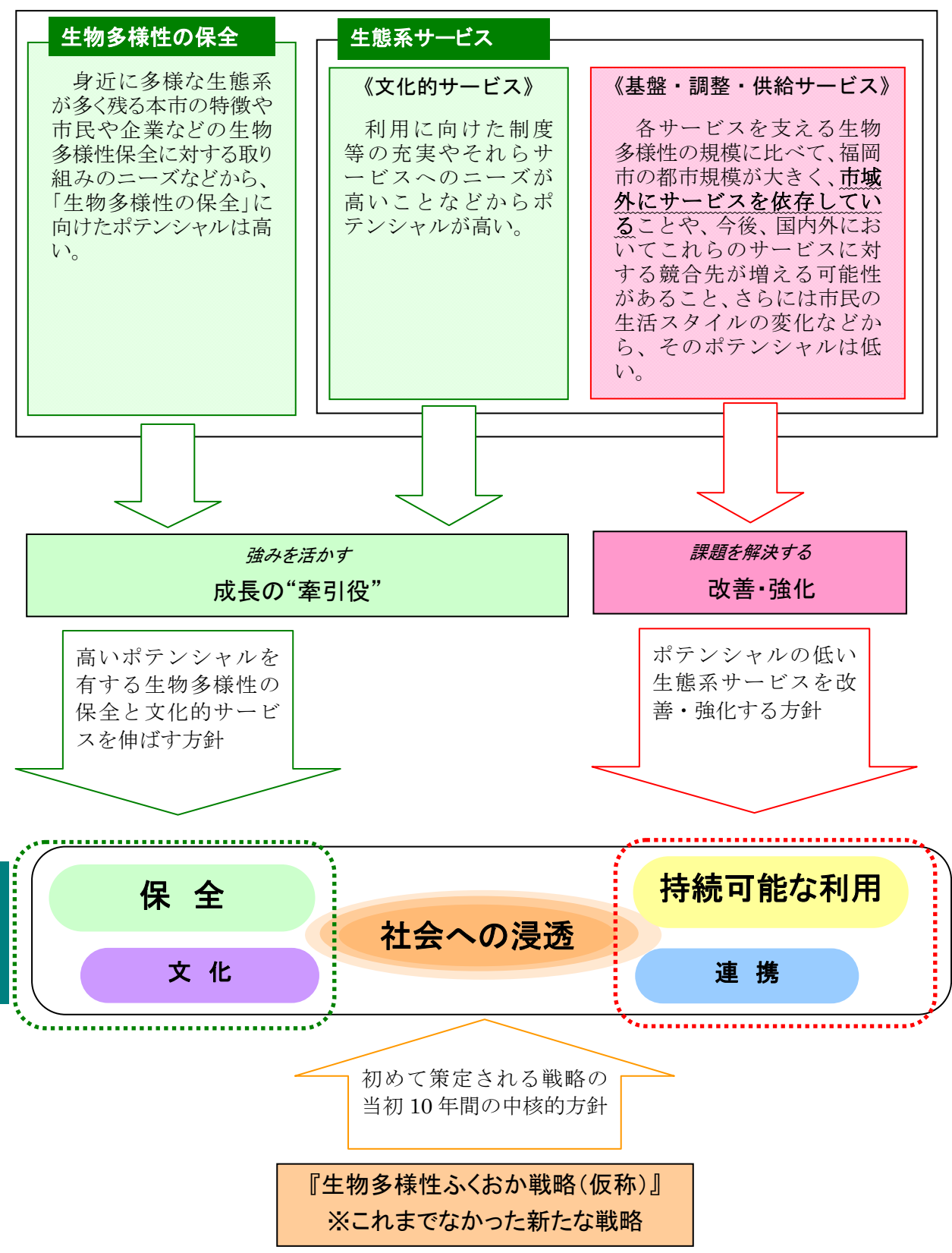
- 「強み」新鮮でおいしい食べ物の豊富さ
自然環境の豊かさ、芸術・文化水準など
- 「機会」エコツーリズムなど
自然環境を活かした観光ニーズの高まりなど

「基盤サービス」

水の循環・栄養塩の循環・土壌形成・一次生産など

- 「弱み」都市化による森林、農地生態系の減少
人工被覆面の増加による水循環機能の低下
生態系への影響など
- 「脅威」基盤的な機能を周辺地域に頼る

課題解決型の方向性だけでなく、組織の強みが発揮できる機能（コアコンピタンス）を重視した方向性を示す



基本的方向